

## 第 8 章

### 目標の管理

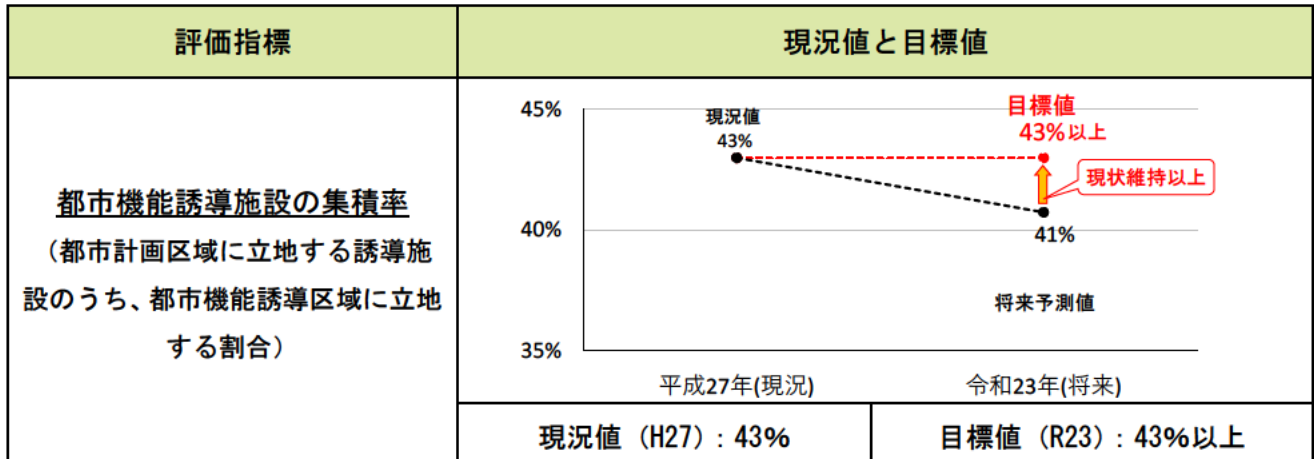
---

## 1. 目標値の設定

目標としている将来都市構造の実現を図るための3つの取組み施策に対する評価指標と目標値を次のように設定します。

### ①「都市機能誘導に係る施策」に対する評価

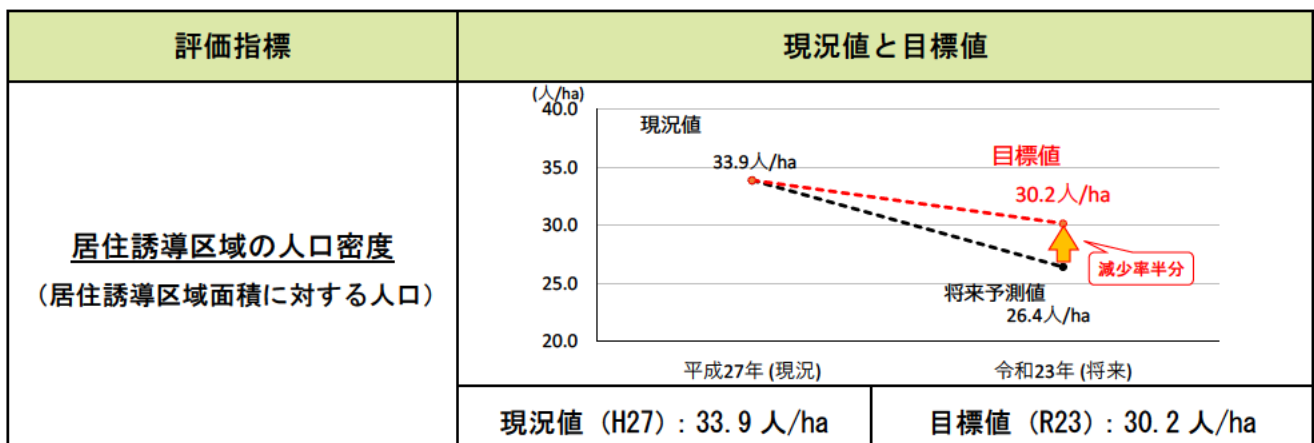
都市機能の向上を目指すにあたり、それを測る評価指標として「都市機能誘導区域における誘導施設の集積率」を設定し、将来人口の減少や少子高齢化の影響で施設の維持が難しくなると予想される中、誘導施策により集積率が高まるとして現状維持以上とすることを目標とします。



### ②「居住誘導に係る施策」に対する評価

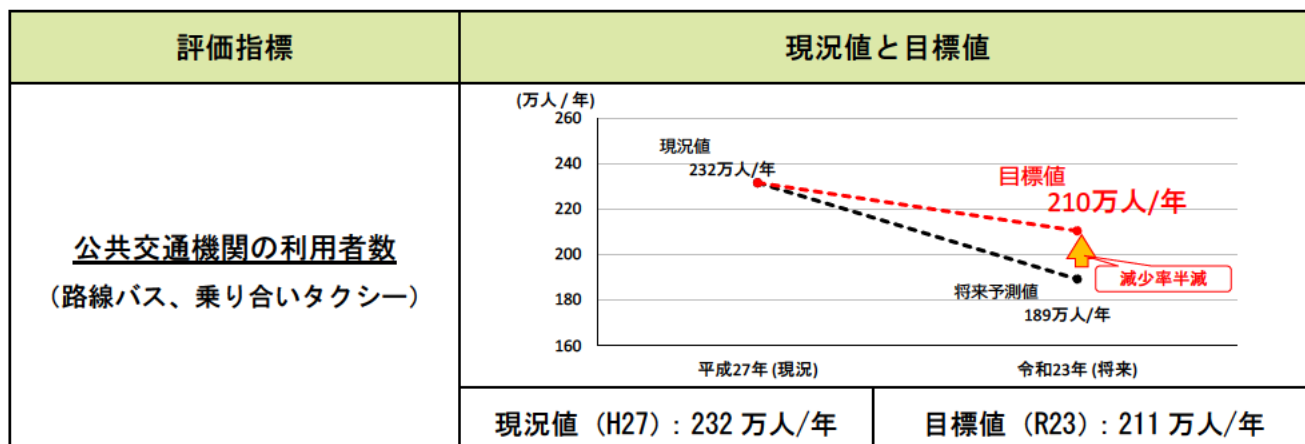
人口の集積を目指すにあたり、それを測る評価指標として「居住誘導区域の人口密度」を設定し、将来八女市全体の人口減少が予想される中、同区域へ誘導・集積を図っていくことで同区域内人口の減少率を半分に抑えることを目標とします。

(居住誘導区域外に転入してくる方々(約1,400人/年)の内、約50人/年程度を居住誘導区域へ誘導することで目標達成が可能である。※H27基準で試算)



③「交通に係る施策」に対する評価

公共交通の維持や利用促進を目指すにあたり、それを測る評価指標として「公共交通機関の利用者数」を設定し、将来人口減少や高齢化により利用者の減少が予想される中、公共交通が利用しやすい居住地域に人々を誘導することで利用者の減少率を半分に抑えることを目標とします。



## 2. 進行管理

本計画は概ね 20 年後の都市の姿を展望した長期的な計画のため、定期的なモニタリングを行い、都市計画マスタープラン等の見直しとの連携を図りながら、適切な進行管理を行う必要があります。

進行管理にあたっては、PDCA サイクルの考え方に基づいて、概ね 5 年ごとに施策の進捗状況や目標の評価等を行い、必要に応じて施策や計画の見直しを行うこととします。

